

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	2092400049		
法人名	社会福祉法人サン・ビジョン		
事業所名	グループホーム第2グレイスフル辰野		
所在地	長野県上伊那郡辰野町樋口454-1 (電話) 0266-44-1321		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成21年2月25日	評価確定日	平成21年3月12日

【情報提供票より】(平成21年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 12月 7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算	9.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費630円(冬期1,050円)
敷 金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり		

(4) 利用者の概要(平成21年 2月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護 1	8	要介護 2	6
要介護 3	4	要介護 4	0
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 84 歳	最低 65 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ 町営辰野病院 ・ 村上歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

伊那谷の北端に位置し、古来より中信地方、諏訪地域、伊那谷を結ぶ交通の要衝として発展した辰野町の南東部、県道下諏訪辰野線から特徴ある大きな洋風のホーム建物が見える。開設2年余りではあるが地域との連携、入居者家族との関わり、職員育成に積極的に取り組み成果を現しつつある。介護予防教室、いきがいデイサービス等の町からの委託事業に参画し、地域高齢者の心身機能維持向上にも努めている。職員育成に関しては法人独自のカリキュラムで能力アップに大きな成果を挙げている。その結果個別ケアに努め、その人らしい生活を地域との交流のもとで継続維持している。各入居者の日々の様子は拡大写真で報告され、家族に喜ばれている。グループホームが法人内に複数あることで切磋琢磨し、お互い、どのホームにも染まらない独自性のあるホームづくりに励んでいる。プロの介護者として最高のサービスを創造するべく意欲的に取組んでいる活気あふれるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 理念に関してはこれまでのものを見直し、新たなものに作り替えた。同業者との交流に関しては研修先で積極的に情報交換しサービスの質の向上に活かしている。防災対策に関しては地域とも相談するなど、課題に対して積極的に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は今回が2回目であるが、管理者等が中心に行い、課題を職員と話し合い、具体的な改善に向け現在取り組んでいる。今後は全職員参加の自己評価を望みたい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 入居者、家族、第三者委員、地区総代、地区福祉委員、包括支援センター、併設3事業所の各代表などが参加し、昨年は2回開催した。今後は回数を増やすことや大勢の入居者家族が参加できる方法を前向きに検討している。定期的に町庁舎を訪ねては事業所の新聞を届け、ホームの様子を報告相談している。また委託事業に関しても町担当者との連携は密に行われており、関係機関と協働しサービスの質の向上に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 満足度調査を実施しており、家族等からの意見や要望を汲み取り、課題によっては次年度の事業計画に組み入れ反映させている。家族等が苦情や意見、要望を表出しやすいように面会時やケアカンファレンス、運営推進会議、第三者委員など多くの機会を設けている。出された意見や要望は前向きに検討しサービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 小学生がホームを訪問し入居者とペアを組みゲームなどを楽しんでいる様子が地元ローカル紙で紹介された。またホームの行事に合わせ地域のボランティアが代わる代わる訪問し交流を行っている。入居者は地域の文化祭に作品を出品し、職員が介護予防教室の支援メンバーとして加わるなど地域との連携に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、積極的に地域との関わりを深めていくことなどを謳った理念に作り替えた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月一度のグループホーム会議や必要に応じ開催されているカンファレンス、申し送り時などで提供したサービスが理念に適切かどうかを確認し、実践に努めている。職員は自分の言葉で理念を語る事ができた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生がホームを訪問し入居者とペアを組みゲームなどを楽しんでいる。またホームの行事に合わせ地域のボランティアが訪問している。区の役員が回覧板の必要な部分をコピーし届けている。地域の文化祭には入居者の作品を出品するなど地元の人達との交流が広がっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は今回で2回目である。管理者とリーダーが作成している。評価から見いだされた地域との交流に関しては具体的な改善に向け現在取り組んでいる。	○	自己評価を全職員で取り組み、職員の意識合わせ、ケアの振り返りや見直し、サービスの質の向上に活かされることを望みます。

グループホーム第2グレイスフル辰野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの様子や外部評価結果などの報告をメンバーとの意見交換を行なっている。現在は併設事業所（3ヶ所）の代表者も参加している。今までの開催内容に加え、家族が大勢集まる年2回の行事に合わせ運営推進会議を開くことも考えている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月発行のサンフラワー新聞を届ける時や委託事業報告時に町担当者とホームの様子や困っていること、取り組んでいることなどを相談している。時には町担当者から入居対応が可能かどうか、利用のことで相談を受けるなど近隣市町村も含め連絡を密に取り合っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時にはホームでの様子を報告したり、介護計画などの確認をお願いしている。健康面やケガ、病気などに関しては電話で様子を報告し相談している。生活の様子は月一回利用請求書と一緒にリーダーが拡大写真にコメントを添えて報告している。家族からは笑顔の写真を見るとホッとすると喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回満足度に関するアンケート調査を行っている。面会時やケアカンファレンス、運営推進会議などで家族から意見や要望を伺う機会を設けている。出された意見等は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はやむを得ない場合を除き行わないように心がけている。職員の交代時は全職員でカバーし合い、入居者に不安や違和感を感じさせないように配慮している。		

グループホーム第2グレイスフル辰野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自の職員の能力を引き出すカリキュラムがあり、職員は個々に課題をもち意欲的に取り組んでいる。法人内外の研修には経験や習熟度に応じて参加している。また、介護支援専門員や介護福祉士などの資格取得を奨励している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の5カ所のグループホームとの交流が定期的であり、切磋琢磨してサービスの向上に励んでいる。町内には同業者は無く、近隣市町村には数ヶ所あるが現在交流はない。グループホーム管理者研修や計画作成担当者研修などで他ホーム参加者と情報交換している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が納得し、馴染んでから利用を開始することを基本としている。介護予防事業で馴染みになった人の入居が多い。新しく入居希望する場合には見学や自宅訪問をしながら馴染みの関係を作りサービス利用へと繋いでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりの考え方や物の見方を職員は共有している。毎日、入居者と一緒にお茶を飲んだり、食事の準備や外出、歌ったりおしゃべりしながら過ごしている。お願いしたり一緒に作業をした時にはお互いに感謝や労をねぎらう言葉を掛け合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや気持ちが自然に発せられるように声がけをしている。意思表示が難しい場合は本人の行動を見たり、家族とも相談しながら本人本位に検討している。「つぶやき集」は本人の気持ちを汲み取る手がかりとして非常に役立っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族からの要望をもとに介護計画作成担当者が暫定プランを作成し、全職員で意見を出し合い最終まとめをしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	業務日誌にはケアプランチェック欄があり、毎日、実施状況を確認している。実施できなかった場合には実施できなかった旨（理由）を記載している。3ヶ月毎に全職員で見直しを行っているが、継続できない状況が生じた場合には直ちに話し合いを行ない新たな介護計画を作成し家族に提示している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容院や買い物、病院受診などの個別の外出には家族に代わり付き添っている。町の介護予防教室、いきがいデイサービス等へ職員が出向し、地域高齢者の心身・健康維持向上に協力している。入居者はアレンジされた運動器機能リハビリを受け心身機能維持向上に励んでいる。		

グループホーム第2グレイスフル辰野


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は入居後も継続している。受診は家族にお願いしているが職員が付き添うこともある。受診時にはバイタルや日々の記録をコピーし、かかりつけ医に報告している。緊急時には適切な医療が受けられるように協力医療機関や歯科医院等と連携している。訪問看護ステーションと契約し2週に1回の訪問時には入居者の健康相談や処置、医療的な相談をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応に関わる指針がありサービス開始時に入居者家族に説明がされている。状態が変わった場合はかかりつけ医、家族等と話し合い家族の意向に沿えるよう支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者と同じ目線に立ち、人生の先輩として敬い声掛けしている。定期的に「セリフ集」を用いて声掛けの振り返りを行っている。職員は個人情報保護法を理解し、守秘義務に徹している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかに日々の予定は組まれているが入居者のその日の気分や体調を聞きながら柔軟に対応している。本人のペース、リズムを大切にしている。「何々したい」という言葉が入居者から頂けるような声掛けをしている。		

グループホーム第2グレイスフル辰野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域で採れる旬の食材、ホームの畑の野菜を使い一緒に食事の準備（買い物や調理、味付けや盛り付け、後片付け等）を日々行っている。食事が楽しみになるように入居者の好物をメニューに加えている。料理に関する話や入居者の思い出話などで会話がはずみ、和やかな雰囲気であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい時に入れるように毎日準備している。男性入居者が多いが、声かけやプライバシーに留意しながら行っている。入浴を嫌がる入居者に仲の良い入居者が「一緒に入らないか」と誘うと「あんたとなら一緒に入る」と応じ入浴するようになったという微笑ましいエピソードを伺うことができた。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴や得意なことを職員は共有している。職員が「昔の遊び班」、「音楽班」、「園芸班」を作り、入居者が意欲的に生き活きと過ごせるよう取り組んでいる。入居者は自分の誕生日には家族と外出し、親子家族水入らずの時を過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物や散歩に出掛けている。いきいきデイサービスに出かける入居者もいる。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠に関しては入居者家族に説明し了解を頂き、必要に応じ玄関に鍵を掛けることもある。職員は鍵を掛けることの弊害を認識している。外出傾向が強く精神的に安定しなような場合にはかかりつけ医と相談し対応している。		

グループホーム第2グレイスフル辰野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を行い消防署に報告している。避難訓練、通報の仕方、消火器の取り扱い方も同時に行っている。住民参加に関しては運営推進会議で報告しているが具体的な取り組みまでは進んでいない。心肺蘇生術、救急救命法、AEDの扱い方なども受講している。スプリンクラー装置が設置されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日摂取量や水分量を確認している。栄養士と調理師の資格を持つ職員がいるので栄養バランスに配慮し、一人ひとりの状態に合わせた食形態で対応し、十分に栄養摂取できるよう個別支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が選んだという花や絵画が飾られた居間にはソファやテーブルと椅子があり入居者が思い思いの場所で過ごすことができる。また庭先にはウッドデッキがあり天気の良い日には居間伝いに出ることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品、愛用品などを持ってきてもらい入居するよう家族に説明している。家族の協力を得ながらコタツを設置した居室等、本人の生活習慣や好みに合わせた居心地の良い居室になっていた。また各居室には低めの洋式トイレが設置されていた。		

※  は、重点項目。